

当院の急性心筋梗塞梗塞における Door to Balloon の現状

【はじめに】2014 年の診療報酬の改定にともない冠動脈インターベンション(以下 PCI)の施行も見直され、PCI の施行項目も明確になった。明記された項目の一つである Door to balloon 時間 90 分以内は、施設のシステム・連携や迅速な対応など、スタッフの総合力現れると考える。今回 Door to balloon の当院の現状について検討した。【方法】2013 年 1 月～2014 年 6 月まで当院に救急搬送された急性心筋梗塞 73 例について救急外来到着から責任病変の再還流までを勤務時間内・勤務時間外に分け、Door to balloon 時間を調査・検討した。【結果】Door to Balloon 81.4 ± 27.4 分(勤務時間内 76.7 ± 24.2 、勤務時間外 88.8 ± 27.2)。90 分を越える遅延症例は 19 例(26%)あり、勤務時間内の 6 例はカテ室が症例中のため ER での待機が必要であった。勤務時間外は補助循環の導入や気管内挿管など 5 例、手技の困難 2 例があった。【考察】当院での Door to balloon の平均は規定時間内であった。19 例の遅延症例の内 6 症例には明確な理由が見つからなかった。今後は日常のスタッフの動向を注視し改善点を探すと共に、ER を含めた関わるスタッフ間で情報を共有し検討する必要が有ると考える。